

入れ歯の日企画

第2回歯科技工問題を 考える懇談会

10月8日(木) 参議院議員会館講堂

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は、若手歯科技工士の激減という深刻な事態を改善し、近い将来の日本の歯科補綴体制の危機的状況を打開しようと、入れ歯の日の10月8日、国会内で「第2回歯科技工問題を考える懇談会」を開催しました。

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会が主催で、昨年につき第2回目の開催となりました。全国から歯科技工士25名、歯科医師・医師15名、市民など84人が参加で大変熱気のある集会となりました。



懇談会はシンポジウム形式で行われました。

コーディネーターとして報告した連絡会・代表世話人の宇佐美宏保団連歯科代表は、歯科技工問題は政府の歯科低診療報酬を背景に起きてきたことを指摘し、歯科技工問題は保険の補綴を守ることに繋がる課題であり「問題解決に向けた我々の運動の覚悟が問われている」と運動を一層強めようと呼びかけました。



会の代表世話人で歯科技工士の雨松真希人さんは、昨年の第1回懇談会以来の運動の広がりがあることを踏まえて「私たちは勇気を持って声を上げ、行動する責任がある」と呼びかけました。

堀内照文日本共産党衆議院議員は、7月1日の衆議院厚生労働委員会での自身の歯科技工問題についての質疑を紹介し、答弁した塩崎厚生労働大臣が「質の向上」に言及するなど政府の対応を批判しました。

小野山幸夫奈良県歯科技工士会長は、「歯科医師法の中に歯科技工士の身分と業務を明記することが必要」と訴えました。



続くフロアからの発言では、「単に技工問題だけではなく、医療全体をよくしなければパイの取り合いになる」「保険で良い歯科医療の運動成果に確信をもって前進しよう」など活発な意見交換がおこなわれた。

参加した歯科技工士からは、このままでは、技工士という職業が夢や希望を持たず無くなってしまおうと感じる。引き続き色々な運動、活動を通じて人間らしく働ける環境づくりの一員として頑張りたい」との感想が出されました。



懇談会には、自民、民主、維新、共産、次世代の各党から国会議員、秘書17名が出席、25名の衆参国会議員よりメッセージが寄せられました。

※敬称略

国会議員／共産・堀内照文、自民・長坂康正、共産・田村智子

秘書／自民党（井上信治、宮路拓馬、長尾敬、若狭勝各衆院議員、石井みどり参院議員）、民主党（大西健一、逢坂誠二各衆院議員、西村まさみ参院議員）、維新の党（川田龍平参院議員）、共産党（堀内照文、山下芳生、高橋千鶴子各衆院議員、田村智子参院議員）、次世代の党（中野正志参院議員）

■メッセージ

国会議員〈衆議院〉自民党／務台俊介、秋葉賢也、長坂康正、井林辰憲、宮路拓馬、井上信治、民主党／長島昭久、田島要、逢坂誠二、郡和子、共産党／畠山和也、宮本徹、大平喜信、池内さおり、真島省三、高橋千鶴子

〈参議院〉自民党／古賀友一郎、民主党／牧山ひろえ、大久保勉、安井美沙子、共産党／井上哲士、田村智子、倉林明子、田村貴昭、吉良よし子

〈団体関係〉全労連全国一般東京地本・吉田製作所労組 林克己、大分県歯科技工士会・川端道德、青森県歯科衛生士会・石田菜穂子、福島県歯科衛生士会・玉川春美、大分県歯科衛生士会・有松ひとみ、佐原民主商工会、豊島民主商工会